秋田×パワースポット
聖なる地を巡る
【Series.1】

大仙市協和

唐松神社

カラマツ
ジンジャ

女一代守神の古社

秋田市内から車でおよそ30分。国道13号線で角館方面に進む途中にその神社は在る。

安産の神として古来より親しまれてきた「唐松神社」。まず初めに出迎えてくれたのは、凛と神々しく聳え立つ秋田杉の巨木。どことなく礼儀正しく並んでいるようにも見えた。

予め取材の旨をお伝えしていた宮司の物部長仁氏とお会いし、話を伺いながら歴史のタイムトリップが始まる。

物部氏のご自宅を兼ねている社務所に入ると、「まずこちらへどうぞ」と、奥の部屋に通していただいた。床の間には「天喜2年」と記された掛け軸が掛かっている。西暦で数えると1054年。つまり今から959年前の平安時代の年号が入った掛け軸が、あたかもそこが自分の居場所というように、ごく当たり前に馴染んでいる。

物部氏は箱の中からある巻き物を広げて見せてくださった。この歴史的な資料から、唐松神社の物語は紡がれていく。

「この神社は昔、佐竹義処（よしずみ）が臨月であった息女・久姫の安産を祈った後、無事に男の子を出産したことがきっかけで御礼として獅子頭を奉納され、獅子舞を舞ったと云われております。祭礼の前後に限り獅子舞巡回を佐竹藩から認めていただいた神社でした。面は現在も大切にありますよ」

秋田県最古の蛇頭神楽面として県の有形文化財にもなっている獅子頭。佐竹義処が唐松神社を領内第一の崇敬社として厚く信仰し、延宝8年（1680年）下宮を建立したほか、毎年獅子神楽を全戸に巡回させたとして、唐松神社に保管されている文献や記録に今なお残っている。

「こちらが講中に伺う、村々の県南地区のリストです。4月8日から9月24日の間に、秋田県の村々合計81ヶ所を8日のつく日に巡ってお祭りをしていました。その日だけは女性はゆっくりして良かったのです。その習慣は江戸

写真上／貴重な巻き物を見せてくれる物部宮司　写真下／唐松神社の縁起には獅子舞のことを「蛇頭神楽」と記されている。蛇頭神楽は別名「仙北神楽」とも呼ばれている

時代から戦前まで継承されました。このような歴史背景もあって、女一代、縁結び・子宝・子安の神様と言われるようになりました。子どもが怪我も病気もせず育ち、その子が大人になって良縁に会い、子宝に恵まれ、女性としての幸せが繰り返されることを願った神社なのです」と物部宮司は微笑む。

”鈴“の数は”幸せ“の音色

「では本殿に参りましょう」　物部宮司の後を歩きながら、どこか不思議な感覚を覚えた。「『社殿って普通、石段を上がったところにあるものじゃないの?』とよく驚かれます」。唐松神社は、杉並木から鳥居をくぐり、石段を下りたところに神様が奉られている。「かつては唐松山頂にあったこの社殿ですが、佐竹義処が領内巡見の際に下馬札を無視し乗馬したまま通り過ぎようとしたら落馬して、それに怒って社殿を平地に下ろして建てたと云われているんです」。そんな歴史話に耳を傾けながら、まるで、赤ちゃんが無事に産道を下って外の世界に出られるように…、という意味が込めている気がしてならなかった。

社殿に入ると様々な鈴が奉納されている。キラキラと輝く金色の鈴もあれば、時代の流れと共に艶を放つ重厚な鈴もある。それらの横には、”緒“と呼ばれる長い綱。キャラクターが描かれた布に綿を詰めた細長い枕のような緒もあった。「この鈴はご祈祷を受けられ、赤ちゃんを授かったときに奉納されているものなのです。ご両親がここで祈祷され、赤ちゃんが生まれ、その赤ちゃんが成長し大人になってから、ご自身の鈴を見に来られる方も多くございます。つい先日も、東京で産婦人科の先生をされている方が、『私の鈴を見せてほしい』といらっしゃったり、九州や四国など全国各地から参拝に来ていただいています」社殿の中で大小様々な鈴や”緒“を眺めていると、言いようのない安心感に身をすっぽりと包まれ、時が経つのも忘れそうになった。

写真右／これまで奉納された数々の鈴の緒が古くなり、束に連なっている。まるで大きな数珠のよう
写真左／全国各地から訪れた参拝客による色とりどりの“緒”。社殿内部には幸せが溢れている

唐松山天日宮（あまつひのみや）

杉並木の横から入る別宮「唐松山天日宮」。鳥居をくぐると、水に浮かぶ孤島のような不思議な石組がある。大小の丸石が積み立てられた土台。「このお宮様は”物部“という氏神様です。社殿の後ろには、直接お詣りできるご神体が祀られているんですよ」

写真左から
《石男石》（授る）
《玉鉾石》（結縁子安）
《子宝の石（女石）》（安産）
玉鉾石は参拝者が触ることにより丸くなり、光りの艶を帯びている

願い事を心で唱えながら、男性は右回りに進み、裏の「玉鉾石」を。女性は左回りに進み「抱石男石」と「玉鉾石」にそれぞれ触る。これを3回繰り返すのが、ご利益を得られる正しい方法とされているらしい。（何かの儀式か…?）と少しだけ戸惑いながらも石畳の橋を渡り、粛々とそれに倣った。

「ところで宮司さん。手を合わせるときって、神様に何をお話しすれば良いのでしょう?」常々疑問に思っていたことを訊いてみると、「願い事を唱えるのも良いですし、『いつも見守ってくれてありがとう』と感謝の気持ちをお伝えしても良いでしょうね」

数多の人に信仰されてきた神社を護る物部宮司は、そう言って穏やかに笑った。

唐松神社
大仙市協和境字下台84
TEL.018-892-3002